



いしわら



読書の秋

校長 飯島 慶裕

朝夕の冷え込みも厳しくなってきました。現在、インフルエンザの流行時期に入っており、市内でも学級閉鎖を行った学校が増えてきています。本校でも、少しずつインフルエンザによる欠席が出てきていますので、警戒が必要です。

ところで、10月18日（土）に実施しました運動会には、多くの保護者や地域の皆様にお越しいただき、ありがとうございました。今年のスローガン「絆 ～心一つに 全力で～」を目指し、子供たちは練習に取り組み、本番でもその成果を発揮していました。今回のスローガンは、児童会が中心となり、全校の子供たちで考え、決めたものです。運動会だけでなく、どんなときにも大切な言葉だと思いました。

さて、秋と言えばいろいろな秋がありますが、「読書の秋」の習慣が始まったのは、終戦まもない1947年（昭和22）年からです。読書の力で平和を築こうという目的で、11月17日から第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響が大きかったので、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日と定められ、この運動は全国に広がっていきました。本校では、この期間を「読書旬間」として、子供たちの読書意欲を高め、読書の習慣を養いたいと考え、次の活動を行います。

- ① 火曜日、水曜日、金曜日に15分間の朝読書をする。
- ② 子供たちが書いた「おすすめの本の紹介カード」を掲示する。
- ③ 教員の「おすすめの本の紹介カード」を図書室に掲示する。
- ④ 図書委員会の子供たちが、集会を行う。（クイズ・読み聞かせ）（実施済）
- ⑤ 絵本等に出てくる食べ物を、給食で提供する。

ただし、全国図書館協議会の学校読書調査によりますと、今年5月の1か月間に本（教科書・漫画等を除く）を読まなかった児童の割合は9.6%で、4年連続減少しているということでした。本校で1学期に行った児童アンケートにおいては、「進んで読書をしている」という項目に対して、「全然思わない」と回答した児童の割合は、低学年…5%、中学年…6%、高学年…20%という結果でした。

読書は脳によい影響を与えるということについては、いろいろなところで言われていますが、ここでは、東海学院大学 アンドリュー・デュア教授の、読書のもたらす恵み14を紹介します。



- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ① 子供の語彙が大幅に増える。 | ② 言葉と読解力が発達する。 |
| ③ 学力が高まる。 | ④ 想像力と集中力が鍛えられる。 |
| ⑤ 性格が人の気持ちを考えるように形成される。 | ⑥ 感情や感性が発達する。 |
| ⑦ 社会性が発達する。 | ⑧ 人の気持ちが読める共感性が成熟する。 |
| ⑨ 文脈理解力が鍛えられる。 | ⑩ 経験の拡張ができる。 |
| ⑪ 悩みを解消する力が身に付く。 | ⑫ 進路のヒントが得られる。 |
| ⑬ 親などとの絆が深まる。 | ⑭ 時間を楽しく過ごせる。 |

※東京都教育委員会「未来を支える読書」 読書のすすめ「本を開いて、未来を開く」より

今はスマートフォンが普及し、小学校高学年では5割近い子供たちが利用しているという調査結果があります（令和6年度 こども家庭庁）。また、スマートフォンのインターネットの利用内容としては、「動画を見る」が74%で最も多く、次いで「ゲームをする」が69%、「検索する」が63%となっています。子供たちはYouTubeをはじめ、様々な映像を通していろいろな情報に接していますが、映像があるためにそのまま受け止め、自分で想像することをやめてしまっているのではないのでしょうか。

読書旬間を機に、子供たちには想像を膨らませながら、登場人物の気持ちになって様々な感情を経験してほしいと思います。まずは、本のある環境をつくるために、保護者の方が楽しく読んでいる姿をお子さんにを見せていただくと効果的です。保護者の方がお子さんと同じ本を読んで、感想を伝え合うのも有効です。読書週間をきっかけに、楽しい読書の時間をみんなで過ごしましょう。

展覧会のお知らせ

文化的行事委員会 塚田園子

11月14日（金）児童鑑賞日・15日（土）保護者鑑賞日の日程で、展覧会を開催します。場所は体育館です。

テーマは『ひろがれ！みんなの夢の世界』です。自分の『夢』や『好き』がつまったすてきな作品がたくさん観られますので、御期待ください。

学年共同制作や、高学年による子供学芸員といった見どころも多くありますので、御家族の皆様で学校へお越しいただき、児童の作品について御家庭で話題にいただけると幸いです。

